

接続辞「(よ)うものなら」の文脈における用法と使用文脈の特徴

松下 光宏

The Usage in context and the Contextual Characteristic
of the Conjective Particle *yōmononara*

MATSUSHITA Mitsuhiro

神戸医療福祉大学紀要 第22巻 第1号

(令和3年12月)

<原著>

接続辞「(よ)うものなら」の文脈における用法と使用文脈の特徴

松下 光宏

The Usage in context and the Contextual Characteristic of the Conjective Particle *yōmononara*

MATSUSHITA Mitsuhiro

This paper reveals the usage in context, the contextual characteristic and the usage condition about the Conjective Particle *yōmononara*. The assertion are as follows.

1. Regarding the usage in context, *yōmononara* is used to elaborate on an unimaginable/inconvincing event (=an unusual event) for listener or speaker himself expressed in context.
2. Regarding the contextual characteristic, *yōmononara* is used in the context in which a general event and an unusual event are contrasted.
3. Regarding the usage condition, *yōmononara* is used when speakers consider that topic event is not a general event, but an unusual event.

Key words : *yōmononara*, context, eraberation, unusual event, general event

「(よ)うものなら」、文脈、敷衍、異質・例外、本来・通常

1. はじめに

本稿は条件を表す接続辞「ものなら」(異形態「もんなら」「ものならば」「もんならば」を含む代表形)のうち、次の(1)のように意志・推量の助動詞連体形(日本語教育においては「動詞意向形」として提示される)に接続する「ものなら」(以降、「(よ)うものなら」)を対象とする。

- (1) 今は、都会でニワトリを飼おうものなら、すぐ近所からうるさいと苦情がくるといふ。

(いわむらかずお『風といっしょに』)

従来の日本語学における研究は「P(よ)うものならQ」の1文のみを分析対象とし、

P、Qで表される事態¹⁾の特徴や名詞「もの」が持つ「一般性」という性質から、「Pが実現すれば、大変/望ましくない/極端な事態Qが起こる」「一般的にPは考えられないが、もしPと仮定するならQ」のように説明してきた。この説明は現在の日本語教育における導入時の指導でも用いられているが、日本語教育の目的として運用能力の養成を掲げるならば、その説明には当該の形式をどのような文脈(文脈の特徴)で、どのように用いるのか(文脈における用法)が説明されるべきであろう。

本研究の目的は「(よ)うものなら」の文脈における用法とその使用文脈の特徴を明らかにすることであり、日本語教育での指導に直

接的な還元ができる記述を目指す。その方法として、「P(よ)うものならQ」の1文のみだけでなく、「P(よ)うものならQ」の先行文脈や後続文脈も含めて分析するという手法をとる。

本稿は以下、次のような構成をとる。まず、2節で先行研究について述べた後、3節で「P(よ)うものならQ」のP、Qに頻出する語句や表現から「P(よ)うものならQ」の文脈における用法を考察する。次に、4節で「P(よ)うものならQ」の先行文脈や後続文脈に頻出する語句から「(よ)うものなら」が用いられる文脈の特徴を分析し、5節でその使用文脈の特徴から「(よ)うものなら」の使用の必要条件をもとめる。最後に6節でまとめを行う。

なお、本研究では用例の分析に『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(国立国語研究所)を用いる²⁾。これは「(よ)うものなら」が雑談などの自然会話で用いられることは少なく、主に小説、シナリオなどでの発話文で多く用いられると考えられるためである。

2. 先行研究

この節では「(よ)うものなら」の日本語学における扱いと日本語教科書における扱いを概観し、先行研究の問題点としてそれらが「P(よ)うものならQ」の1文のみを分析対象としているもので、文脈における用法や使用文脈の特徴についての分析が欠如していることを挙げる。

2-1 日本語学における扱い

従来の「(よ)うものなら」の研究は「P(よ)うものならQ」の1文のみを分析対象として行われてきており、その分析の観点には主に以下の2つのタイプがある。

(2) 「P(よ)うものならQ」の構文レベ

ルで表される事態の特徴から意味・用法をとらえたもの

(3) 名詞「もの」の性質から「(よ)うものなら」の意味をとらえたもの

(2) は主にQの事態の特徴に注目し、「Pが実現すれば、望ましくない事態、大変な事態が起こる」と説明するものが中心で、国立国語研究所(1951)³⁾、松村明(編)(1971)⁴⁾、日本語教育学会(編)(1982)⁵⁾、日本語記述文法研究会(編)(2008)⁶⁾などが同様の説明をしている。

(4) 一度でも断ろうものなら、今後仕事はもらえないだろう。

(日本語記述文法研究会(編)2008:120) そのなかで玉村(1984)⁷⁾は、Qの事態には(5)のように「望ましくない事態」とは異なる事態が存在することを指摘し、「ものなら」は「なら」では表現できない極端な場合を想定すると論じている。

(5) 甲子園で優勝でもしようものなら、町の人のよろこびかたは異常なほど高まるだろう。

(玉村1984、例(a⑤))

一方、(3)は名詞「もの」の「一般性」という意味が「P(よ)うものならQ」にも備わっていて、「一般的にPは考えられないが、もしPと仮定するならQ」という意味を持つとするもので、坪根(1996)⁸⁾がこのような説明を示している。

(6) あの高校はパーマをかけてこうものなら、即、停学だそうですよ。

(坪根1996、(15a))

以上のように、(2)と(3)のどちらのタイプの説明においても「P(よ)うものならQ」の1文のみを分析したものであり、「(よ)うものなら」文脈における用法、そして、「(よ)うものなら」が用いられる文脈の特徴については言及されていない⁹⁾。

2-2 日本語教科書における扱い

「(よ)うものなら」は日本語教育では中級での導入が一般的である。本研究では、日本語学校等でよく使用されていると思われる中級レベルの日本語総合教科書10冊を調査した結果、「(よ)うものなら」は、『生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語』(2012)、『ニューアプローチ 中・上級日本語 [完成編] (改訂版)』(2002)、『みんなの日本語 中級Ⅱ』(2012)、(以降、下線部分で表示)の3冊で扱いがあることがわかった¹⁰⁾。表1は各教科書の本冊や教師用指導書から、その説明や例文を引用したものである。

以上のように、日本語教科書での扱いは日本語学での説明とほぼ同様のものである。「P(よ)うものならQ」の1文のみでとらえたものとなっており、「(よ)うものなら」の文脈における用法やその使用文脈の特徴についての説明はなされていない。

3. 「(よ)うものなら」の文脈における用法

この節では「P(よ)うものならQ」のP、Qによく現れる語句や表現を調査し、その調査結果から「P(よ)うものならQ」が文脈においてどのように用いられるのか、その用法を述べる。

3-1 「P(よ)うものならQ」のP、Qに多く出現する語句や表現

「P(よ)うものならQ」のPに現れる語句や表現を調査すると、Pには例示を表す「でも」「など」「たり」「とか」や、否定的評価を表す「など」「なんか」「なんて」、不注意を表す「うっかり」「うかつに」「下手に」、少ない量を意味する語に「でも」がついて譲歩を表す「(一言/一步/ひとつ/少し/ちょっと/わずかに)でも」(以降、「最少量譲歩」)などの語句が多く見られた。

表2は「P(よ)うものならQ」のPにおける、これらの語句の出現数を表したものである。

表2で4つに分類して示した語句の総出現数は127例である。これらは「P(よ)うものな

表1 「(よ)うものなら」を扱っている日本語教科書での説明と例文

	『生きた素材』(1998)	『アプローチ』(2002)	『みんな』(2012)
意味・用法	誇張した仮定条件の表現。後件には「大変なこと、望ましくないことが起きる」という内容がくることが多い	もし～たら、とんでもない結果になる	もしその事態が起こったら、その後で大変なことになる
例文	昔は、若い女性が男性と二人で出かけようものなら、町中の噂になったものだ。	両親はととても厳しい。少しでも口答えしようものなら、たたかれる。	プライドの高い佐藤さんを批判しようものなら、彼は怒るだろう。

表2 「P(よ)うものならQ」のPによく出現する語句とその出現数

		「(よ)うものなら」 231例中 ¹¹⁾
例示	でも、など、たり、とか	79
否定的評価 ¹²⁾	など、なんて、なんか	12
不注意	うっかり、うかつに、下手に	20
最少量譲歩	(一言、一步、ひとつ、少し、ちょっと)でも	16
合計		127

らQ」のP内で共起可能な組み合わせが多いため、これらの語句が出現したPの件数を調べた。結果は231例中118例であった。これらの語句の出現が「(よ)うものなら」の特筆すべき特徴であることを調べるために、本研究ではその比較材料として、例示を表す「たり」と条件を表す「たら」が結びついた「たりしたら」という形式で1つの条件形式ととらえ、「たりしたら」におけるこれらの語句の出現頻度を調べる。

「たりしたら」を比較材料とする理由は、「P(よ)うものならQ」のPに例示を表す語句が多く出現するため、例示を表す「たり」を構成要素に含む「たりしたら」が数ある条件形式のなかで最も「(よ)うものなら」と意味的に近いと考えられるからである。実際、次の(7)のように1文レベルでは「(よ)うものなら」を「たりしたら」に置き換えても意味はほとんどかわらない。

- (7) 一度でも | 断ろうものなら / 断ったりしたら |、今後仕事はもらえないだろう。 (1) 再掲

表3は「P(よ)うものならQ」のPにおける否定的評価、不注意、最小量譲歩の語句の出現数と、「PたりしたらQ」のPにおける否定的評価、不注意、最小量譲歩の語句の出現数とを表したものである。例示を表す語句を比較の対象から外したのは、「たりしたら」において「たり」が例示を表す語であるため「たり」以外の例示を表す語句は出現しにくいからである。

「P(よ)うものならQ」のPには231例中、否定的評価を表す語が12例、不注意を表す語が20例、最小量譲歩を表す語が16例出現するが、「PたりしたらQ」のPには487例中、否定的評価を表す語が9例、不注意を表す語が5例、最小量譲歩を表す語が1例しか出現しない。また、否定的評価、不注意、最小量譲歩の語句が出現するPの件数は、「P(よ)うものならQ」が231例中46例であり、「PたりしたらQ」においてはこれらの語句が共起している例が少なく、487例中15例であった。

否定的評価、不注意、最小量譲歩の語句が出現したPの件数を「P(よ)うものならQ」と「PたりしたらQ」で比較すると0.1%水準で有意差あり ($\chi^2=54.97, p=.000$) という結果になる。よって、Pに否定的評価、不注意、最小量譲歩を表す語句が現れるというのは、「たりしたら」よりも「(よ)うものなら」に顕著に見られる特徴であることがわかる。Pに例示を表す語句の出現についても、その割合(34.2%)から考えると「(よ)うものなら」の特筆すべき特徴であると言えるだろう。

次に、「P(よ)うものならQ」のQに現れる語句や表現を調査すると、Qの述語には「～(ら)れる(受身形)」「～てしまう」「大変(だ)」「～かねない」といったマイナス評価を表す形式や、「～になる / ～ことになる」の形式を用いたマイナス評価を表す表現が多く用いられていた。「～になる / ～ことになる」の具体的な表現には「大変な騒ぎになる」「台無しになる」「後悔する羽目になる」「大変な

表3 「P(よ)うものなら / たりしたらQ」のPによく出現する語句とその出現数

		「(よ)うものなら」 231例中	「たりしたら」 487例中 ¹³⁾
否定的評価	など、なんて、なんか	12	9
不注意	うっかり、うかつに、下手に	20	5
最小量譲歩	(一言 / 一步 / ひとつ / 少し / ちょっと) でも	16	1
合計		48	15

ことになる」「えらいことになる」「こわいことになる」があった。先行研究で指摘されているとおり、Qはほとんどマイナス評価を表すものである。

表4は「P(よ)うものならQ」のQにおけるこれらの語句や表現の出現数を表したものである。表3同様、比較材料として「PたりしたらQ」のQにおけるこれらの語句の出現頻度も表す。

「P(よ)うものならQ」のQには231例中「～(ら)れる(受身形)」が46例、「～てしまう」が19例、「～になる/～ことになる」(マイナス評価の表現)が8例、「大変(だ)」が8例、「～かねない」が8例出現する。表4で分類して示した語句は「P(よ)うものならQ」のQ内で共起可能な組み合わせがあるため、これらの語句が出現したQの件数を調べた。結果は231例中83例であった。

一方、「PたりしたらQ」のQには487例中「～(ら)れる(受身形)」が17例、「～てしまう」が12例、「～になる/～ことになる」(マイナス評価の表現)が23例¹⁴⁾、「大変(だ)」が12例、「～かねない」が4例出現する。これらの語句が出現したQの件数を調べると487例中81例であった。

これらの語句が出現したQの件数を「P(よ)うものならQ」と「PたりしたらQ」で比較すると0.1%水準で有意差あり($\chi^2=32.02, p=.000$)という結果になる。よって、Qの述語に「～(ら)れる(受身形)」「～

しまう」「大変(だ)」「～かねない」「～になる/～ことになる」といったマイナス評価を表す語句が現れるというのは「(よ)うものなら」に顕著に見られる特徴であることがわかる。

3-2 文脈における「(よ)うものなら」の用法

3-1で示した「P(よ)うものならQ」のP、Qに多く出現する語句や表現、特にPに多く出現する語句に着目し、「P(よ)うものならQ」の文脈における用法を分析する。

「P(よ)うものならQ」のPには例示、否定的評価、不注意、最小量譲歩を表す語句が多く見られた。「P(よ)うものならQ」のPに例示を表す語句が現れる場合「P(よ)うものならQ」が表す事態は具体例を表していることになる。文脈の流れのなかで具体例を示すということは先行文脈で述べられている事態を聞き手によりわかりやすくするためのものとして用いられている(話し手自身の納得のために用いられる場合もある)と考えられる。

例えば、次の(8)では「P(よ)うものならQ」のPには例示を表す「でも」が現れており、「P(よ)うものならQ」の「大井川の川止めでもあろうものなら、その両岸の島田や金谷あたりだけでなく東海道はかなり渋滞する」(実線部分)は、先行文脈の「東海道は江戸時代の誇るメインストリートだった」(波線部分)という現在からは想像しがたい過去の事態を

表4 「P(よ)うものなら/たりしたらQ」のQによく出現する語句とその出現数

	「(よ)うものなら」 231例中	「たりしたら」 487例中
～(ら)れる(受身形)	46	17
～てしまう	19	32
～になる/～ことになる	8	23
大変(だ)	8	12
～かねない	8	4
合計	89	88

聞き手が想像しやすくするための具体例として提示されている。

- (8) この赤坂宿は、お江戸日本橋を振り出しとする東海道の三十六番目の宿場だ。飛行機、新幹線、東名高速道路によって牛耳られる今日からは、かつての東海道の賑わいは想像すべくもない。街道の中の街道、大名行列の行き交う東海道は、江戸時代の誇るメインストリートだった。大井川の川止めでもあろうものなら、その兩岸の島田や金谷あたりだけでなく、東海道はかなり渋滞する。

(村松友視『河童の尻』)

また、「P(よ)うものならQ」のPに否定的評価、不注意を表す語句が現れる場合「P(よ)うものならQ」は「実現しない/実現させてはいけな」と話し手が考える事態Pが(不注意などで)実現したら大変な事態Qが起こる」ということを表している。そして、そこには「Pが実現すればQが起こるからPは実現しない/実現させられない」という含意が存在する。文脈の流れのなかで「実現しない/実現させてはいけな」と話し手が考える事態が実現したらどうなるかを示すということは、先行文脈で「実現しない/実現させてはいけな」ことが述べられているが、聞き手にとって(話し手自身にとっての場合もある)その理由が想像しがたいからであると考えられる。

例えば、次の(9)では「P(よ)うものならQ」のPには否定的評価を表す「なんて」が現れており、話し手の認識のなかで実現させられない事態「やめてくれと言う」が仮定されている。先行文脈には、仲間が残忍な形で殺害されているが「あっしらはもう、声も出やせんでした」(波線部分)という聞き手にとっては理解しがたい事態が述べられてい

る。「P(よ)うものならQ」の「やめてくれ、なんて言おうもんなら、今度あこつちが斬られるんじゃねえかと(思った)」(実線部分)はこの理解しがたい事態について聞き手を納得させるための理由として提示されている。

- (9) まるで子供が棒か何かでぶつような、乱暴で品のない斬り方だった。小坂は首を斬られ、倒れ、その背中を別の狐面がさらに突いた。刀を抜き、足で蹴って仰向けに返し、小坂の息の根が止まるまで何度でも胸や腹を突き刺した。「…あっしらはもう、声も出やせんでした。やめてくれ、なんて言おうもんなら、今度あこつちが斬られるんじゃねえかと」違いない、と隣の若い者も頷き、探るような眼で今村を見る。

(誉田哲也『吉原暗黒譚一狐面慕情一』)

次の(10)では、「P(よ)うものならQ」のPには不注意を表す「うっかり」が存在し、話し手の認識のなかで実現させられない事態「朝寝坊する」が仮定されている。そして、「P(よ)うものならQ」の「うっかり寝坊でもしようものなら、なにかあったのかと隣りのおじさんおばさんが覗きに来る」(実線部分)は先行文脈の「下町の人たちは朝が早く、向う三軒両隣りどこを向いても人の顔があるから朝寝が出来ない」(波線部分)という、下町を知らない聞き手には想像しがたいと話し手が認識する事態について、より想像しやすくするための理由として提示されている。

- (10) 谷中の暮らし一下町の人たちは朝が早い。向う三軒両隣りいずこを向いても人の顔がある。だから朝寝が出来ない。うっかり寝坊でもしようものなら、なにかあったのかと隣りのおじさんおばさんが覗きに来る。その代りにちょっと遠

出をするときには、ひと声隣りに声をかけて出かければ錠代りのいい留守番になってくれる。

(金子信雄『金子信雄の楽しい夕食』)

そして、Pに最小量譲歩を表す語が現れる場合、「P(よ)うものならQ」は「少量程度の事態Pが実現しても、通常、何も起こらない/Qは起こらない」と想定する事態においてQが生起することを表す¹⁵⁾。よって、「P(よ)うものならQ」には、「P(少量程度の事態)が実現しても通常Qは起こらない」と想定する事態が実際は起こったという具体例を表す場合と、「P(少量程度の事態)が実現しても通常起こらないと想定するQが起こるからPは実現しない/実現させてはいけない」という含意が存在する場合がある。Pに最小量譲歩を表す語が現れる場合も、先に述べたように、先行文脈で述べられている事態が聞き手、または話し手自身には想像しがたいと話し手が認識するものであり、その先行文脈の事態を聞き手、または話し手自身により想像しやすくするためのものとして用いられている。

例えば、次の(11)では「P(よ)うものならQ」のPには最小量譲歩を表す語句「少しでも」が現れており、「P(よ)うものならQ」には、Pの「少し遊歩道からはみ出る」程度のことでは起こらないと考えられるQ「環境庁のアルバイト学生がハンドスピーカーで「そこのお客さん歩道を歩きなさい」と注意する」(実線部分)の生起が表されている。「P(よ)うものならQ」は先行文脈の「(立山・室堂平の高原は)今では鉄の杭でロープが張ってある(自由に歩き回れなくなった)」(波線部分)という、過去の立山の様子からは想像しがたい現在の立山の様子を想像しやすくするための具体例として提示されている。

(11) かつては、自由に歩き回れた立山・

室堂平の高原は、今では、鉄の杭でロープが張ってあります。少しでも遊歩道からはみ出そうものなら、環境庁のアルバイト学生がハンドスピーカーで、「そこのお客さん、歩道を歩きなさい」と、注意する。

(高田直樹『なんで山登るねん』)

ここまで例示、否定的評価、不注意、最小量譲歩を表す語句が出現する例を挙げたが、これらの語句が出現していない例についてもその用法を見てみる。

例示、否定的評価、不注意、最小量譲歩を表す語句が出現していない場合にも先行文脈で述べられた事態についての具体例や理由として用いられるほか、先行文脈で述べられた事態についてさらなる説明を付け加えていくような例も見られる。

例えば、次の(12)では「P(よ)うものならQ」のPには例示、否定的評価、不注意、最小量譲歩を表す語句は出現していない。「P(よ)うものならQ」の「言葉を濁そうものなら大変です」(実線部分)は先行文脈の「彼女はそれ以来、ことあるごとに訊いてくるようになった」(波線部分)という事態について、「私のどこが好き？」自分が愛されている証を求めるようになった」という具体例のあとさらにその変化の様子についての詳しい説明を付け加えるのに用いられている。

(12) 会社帰りにデートをしようと約束していたのですが彼が会社を出ようとすると、同僚のD子さんが泣きはらした顔で近づいてきます。仕事上のトラブルを相談したいと深刻な顔で話すのでちょっとだけならと聞いてしまったのが運の尽きでした。待ち合わせの時刻に三十分も遅刻してしまったのです。

彼女にきちんと謝り、そのときは丸く収まりました。しかし、彼女はそれ以来、ことあるごとに訊いてくるようになったのです。「ねえ、私のどこが好き？」自分が愛されている証を求めようになったのです。言葉を濁そうものなら大変です。「適当に返事をしないで！真剣に答えてよ」どうやらD子さんに嫉妬をしているらしく、納得できる答えを聞くまで、押し問答は続くのだとか…。

(水谷隆介 / 野崎真理子『大丈夫。ちょっとした「ひと言」で愛される』)

以上から、「P(よ)うものならQ」の文脈における用法は次の(13)のようなものだとと言えるだろう。

- (13) 先行文脈の内容を、聞き手または話し手自身が想像、納得しやすくなるように、具体例や理由などを述べることにより敷衍する

4. 「(よ)うものなら」の使用文脈の特徴

3節の分析から、「(よ)うものなら」が用いられる文脈には「P(よ)うものならQ」で表す情報がないと聞き手または話し手自身が想像、納得しがたいと話し手が認識する事態が述べられていることが考えられる。

では、その聞き手または話し手自身が想像、納得しがたい事態の内容とはどのようなものだろうか。この節では「(よ)うものなら」が用いられる文脈について、文脈に出現する語句を調べ、その特徴について論じる。

4-1 「(よ)うものなら」の使用文脈によく出現する語句

「(よ)うものなら」が用いられる文脈に出

現する語句を調べるにあたり、まず、調査する文脈の範囲について述べる。調査範囲は「P(よ)うものならQ」が含まれる1つの話題部分とする。つまり、1つの話題が継続する範囲によっては、「P(よ)うものならQ」とその先行文脈だけでなく後続文脈も調査範囲となる。後続文脈も調査範囲に含むのは、文脈全体の特徴をつかむには先行文脈だけでなく、「P(よ)うものならQ」の後続文脈にも文脈の特徴をつかむヒントとなる語句が出現する可能性があるからである。また、通常は先行文脈に表される事態が、修辭的な理由により後続文脈に表される可能性もぬぐいきれないからである。

例えば、次の(14)では出現語句を調べる文脈の範囲は点線部分、実線部分、波線部分のうち、実線部分のみとなる。点線部分は「人類、核戦争」について、実線部分は「立山の登山について」、波線部分は「枯れ木」についての話題となっている。そのうち、「P(よ)うものならQ」が含まれる話題は実線部分である。

- (14) この〈報告〉にいう二千年までに死滅する二十万の種のうちには、人類は入っていないはずですが、でも、ひとたび核戦争が起れば、人類はおろか、ほとんどすべての種が、明日にでも死滅する。なんとも恐ろしい時代に、ぼく達は生きていくということのようです。かつては、自由に歩き回れた立山・室堂平の高原は、今では、鉄の杭でロープが張ってあります。少しでも遊歩道からはみ出そうものなら、環境庁のアルバイト学生がハンドスピーカーで、「そこのお客さん、歩道を歩きなさい」と、注意する。酒をのんでの話なのですが、

「なんの因果で、息子ほども年のちがう若造にどなられんといかんのや。ほんまに情のうなっしてもうて…」という、年配の地元登山家の嘆きは、ほんとに身にしみて同感なのでした。学生の頃は、生のものは別としても、這松は、平気で薪にできました。いまどきは、ころがっている枯木でさえ、燃やしたら始末書・罰金です。

(高田直樹『なんで山登るねん』)

ここから調査の結果について述べていく。「(よ)うものなら」が用いられる文脈に多く出現する語句には、「～ころ／～とき (は)」「今／現在 (は)」「昔／かつて (は)」「それから／～から／～以来 (は)」「それまで／従来 (は)」「日本 (は／では)」「日本人 (は)」「西洋 (は／では)」などの対立項を持つ副詞的語句が多く見られた。

表5は文脈における2つの対立する語句とその出現数、表6は文脈に1つのみ出現する対立項を暗示する語句とその出現数を表したものである。類義の語句や同じカテゴリーに分類

される語句をまとめ、2回以上出現した語句を表に示している。

1つの文脈に2つの対立する語句が出現している例、たとえば「今は」と「かつては」のように対立する両方が出現している例は231例中53例あった。1つの文脈に対立項を暗示する語句が1つのみ出現している例、たとえば「今は」のみが出現し、「昔／かつて (は)」が暗示されているような例は231例中33例であった。

一方、「たりしたら」の使用文脈においてこうした対立項を持つ副詞的語句の出現数を調べると、文脈に2つの対立する語句が出現している数は487例中18例、文脈に対立項を暗示する語句が1つのみ出現している数は487例中17例であった。

「(よ)うものなら」が用いられる文脈に出現する対立項を持つ副詞的語句86例(2つの対立する語句が出現している53例+対立項を暗示する語句が1つのみ出現している33例)と、「たりしたら」が用いられる文脈に出現する副詞的語句35例(2つの対立する語句が出現している18例+対立項を暗示する語句が

表5 文脈における2つの対立する語句と出現数(2回以上のもの)

語句		頻度 231例中
今／現在 (は／では)	⇔ 昔／かつて／当時／～ころ／～とき／～てから (は)	17
日本 (は／では)	⇔ アメリカ／イタリア／ドイツ／ヨーロッパ／外国／西洋／中国 (は／では)	10
日本人 (は)	⇔ アメリカ人／アメリカの政治家／アメリカの看護師／スウェーデン人 (は)	4
いつも (は)	⇔ 時々／～とき／～期 (は) これまで／従来 (は)	3

表6 文脈に1つのみ出現する対立項を暗示する語句と出現数(2回以上のもの)

語句	頻度 231例中
～ころ／～とき (は)	10
今／現在／最近 (は)	5
～以来／～てから (は)	5
これまで／従来 (は)	4
日本人 (は)	2

1つのみ出現している17例)を比較すると0.1%水準で有意差あり ($\chi^2=100.98, p=.000$) という結果になる。

このことから、対立項を持つ副詞的語句が文脈に出現するというのは「(よ)うものなら」の使用文脈に顕著に見られる特徴であることがわかる。

4-2 「(よ)うものなら」の使用文脈の流れ

4-1で示した結果から、「(よ)うものなら」が用いられる文脈には2つの対立する事態が対比的に表されることが多いということがわかる。3節の分析結果を踏まえれば、「P (よ)うものなら Q」はこの対比的に表される2つの事態のうち、一方の事態を聞き手または話し手自身にとって想像、納得しがたい事態であると話し手が認識し、その内容を敷衍するために用いられると言えるだろう。

以下、「P (よ)うものなら Q」が具体例や理由などで敷衍する先行文脈の事態を Y、Y と対立する事態を X とし、この文脈の流れを図に表すと図1のようなになる。ただし、この図1の文脈の流れは代表的なものであり、出現順序が異なる場合もある。

以下に例を示す。(15) (16) はともに事態

Y に対して対立する事態 X が文脈に存在すると判断できる例である。

(15) ほんとうはヤミ屋に頭を下げるなど好むところではないが、今は彼以外に頼れそうな人もない身だ。もし誰にも頼らず通りがかりの人に声をかけようものなら、物だけかっぱらって逃げるか、反革だと大騒ぎして公安員に突き出すにちがいないのだ。

(良永勢伊子『忘れられた人びと—中国残留婦人たちの苦闘の歲月—』)

事態 X : 「ほんとうはヤミ屋に頭を下げるなど好むところではない」

(点線部分) (本来の事態)

事態 Y : 「今は彼 (ヤミ屋) 以外に頼れそうな人もない身だ」(波線部分) (本来の事態とは異なる一時的な状態で、聞き手には理解しがたいと話し手が認識する事態)

「P (よ)うものなら Q」: 「もし誰にも頼らず通りがかりの人に声をかけようものなら、物だけかっぱらって逃げるか、反革だと大騒ぎして公安員に突き出すにちがいない」(実線部分) (事態

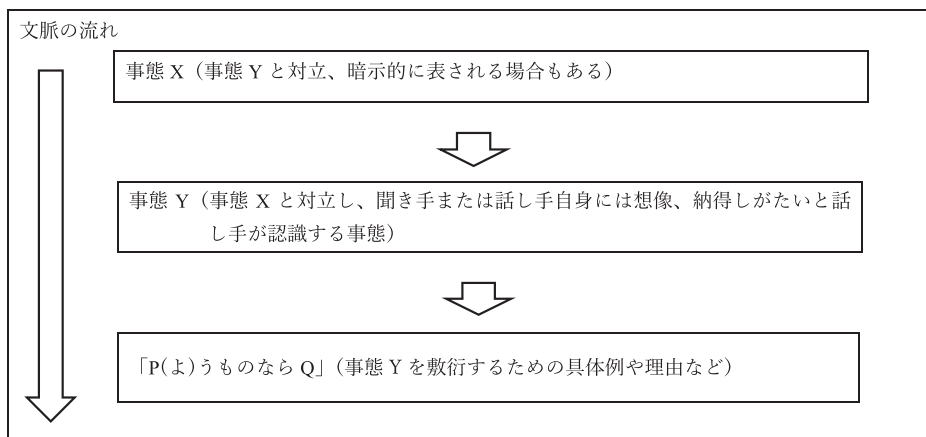


図1 「(よ)うものなら」が用いられる文脈の流れ

Yを敷衍するための理由)

- (16) 私の先祖たちのころは、私が今しているように、人間の中に入りこんで毎日を過ごすことなど、考えられもしなかった。私たちの族を人間は嫌い、姿を見かけようものならば、銃で撃ったり鋤でついたり薬を撒いたり、それはもうたいへんなものだった。今では、私を攻撃しようとする人間など、ごくわずかだ。

(川上弘美『龍宮』)

事態 X:「今私が人間の中に入りこんで毎日を過ごす」(点線部分)(現在の事態)

事態 Y:「私の先祖たちのころは、(私たちの族が)人間の中に入りこんで毎日を過ごすことなど考えられもしなかった」(点線部分を含む波線部分)(現在の事態からは考えられない過去の事態で、聞き手には想像しがたいと話し手が認識する事態)

「P(よ)うものならQ」:「(人間は私たちの族の)姿を見かけようものならば、銃で撃ったり鋤でついたり薬を撒いたり、それはもうたいへんなものだった」(実線部分)(事態Yを敷衍するための具体例)

4-3 文脈に対立する2つの事態が明示的に現れていない場合

「P(よ)うものならQ」が用いられる文脈には、「P(よ)うものならQ」が敷衍する事態Yに対して、対立する事態Xが文脈に明示的に存在しない例もある。しかし、そうした例でも事態Yと対立する事態Xは文脈から読み取れる。

次の(17)は事態Yに対して、対立する事態Xは文脈に明示的には存在しないが、

事態Yを表す文中に対立項を暗示する語句が存在し、対立する事態Xが暗示されると判断できる例である。

- (17) 4 “Drive Carefully!” 「安全運転してね」 自分のやることに、絶対的な自信を持っているママボーイ系ダメ男は、他人にさしずされることが大嫌い。 そのわかりやすい例が、車の運転だ。運転中に助手席からあれこれ言われることを何よりもいやがる。「右の車線に移ったら?」とか「ここ曲がったほうが近道じゃない?」などと、意見しようものなら、子供のようにつむじを曲げてしまう。 「安全運転しろ」なんて言葉は絶対禁句。
(磯部安伽『COSMOPOLITAN 日本版』2003年3月号)

事態 X (暗示):「他の男性は他人に指図されるのが大嫌いということはない」(他の大部分の男性にあてはまる事態: 事態Yを表す文中の「自分のやることに絶対的な自信を持っているママボーイ系ダメ男は」という対立項を暗示する語句から)

事態 Y:「自分のやることに絶対的な自信を持っているママボーイ系ダメ男は他人にさしずされることが大嫌い」(波線部分)(一部の男性にのみあてはまる事態で、聞き手には想像しがたいと話し手が認識する事態)

「P(よ)うものならQ」:「「右の車線に移ったら」とか「ここ曲がったほうが近道じゃない」などと意見しようものなら、子供のようにつむじを曲げてしまう」(実線部分)(事態Yを敷衍するための具体例)

次の(18)は事態Yに対して、対立する

事態 X は文脈に明示的には存在せず、事態 Y を表す文中に対立項を暗示する語句も存在しない例であるが、文脈から対立する事態 X の存在が読み取れる。

(18) 鳥の人たちも磯根資源については関心がないんだね。放任しているね。向う岸の若いのが五、六人乗ってね。飛行機の爆音のような音させながら、船足の速いのでやってきてね。こちらが注意でもしようもんなら、なぐりかかれて殺されるかも知れん、といった柄の悪いのがやってきてね。だから手出しができませんですよ。養殖のね、ハマチやカンパチなんかも取ろうとするんだからね。

(川口祐二『苦あり楽あり海辺の暮らし』)

事態 X (文脈から読み取れる): 「本来であれば、注意するなど何等かの手出しをしたい」(本来の事態)

事態 Y: 「手出しができない」(波線部分)(このケースに限っての例外的な事態で、聞き手には理解しがたいと話し手が認識する事態)

「P (よ)うものなら Q」: 「こちらが注意でもしようもんなら、なぐりかかれて殺されるかも知れない」(実線部分)(事態 Y を敷衍するための理由)

以上のように、「(よ)うものなら」が用いられる文脈には2つの対立する事態が明示的に現れていなくても、文脈から対立する事態の存在が読み取れることがわかる。

4-4 2つの対立する事態の内容

「(よ)うものなら」が用いられる文脈に表される2つの対立する事態について、それぞれどのような内容を表しているのかを分析す

ると次の(19)のようなものであると判断できる。

(19) 【P (よ)うものなら Q】が敷衍する事態 Y】

本来・通常起こる事態とは異なる、現在または過去に一般的である / あった事態とは異なる、同じカテゴリーの大部分とは異なる、よく知っている事態とは異なる、など聞き手または話し手自身にとって想像、納得しがたいと話し手が認識する事態(異質・例外であると認識する事態)(以降、「異質・例外の事態」とよぶ)

【事態 Y と対立する事態 X】

本来・通常起こる、現在または過去に一般的である / あった、同じカテゴリーの大部分に共通である、よく知っている、などと話し手が認識する事態(本来・通常であると認識する事態)(以降、「本来・通常事態」とよぶ)

次の(20)では、「P (よ)うものなら Q」の先行文脈には点線部分「深夜の一時、二時まで毎晩のように残業をし、家に帰ったら寝るだけというハードな生活を母親は「よく頑張るわね」と褒めてくれた」という事態と、波線部分「結婚したとたんに、それが許されなくなる」という2つの事態が対比的に表されている。前者は話し手が当然のことと認識していた結婚前の状態が表されている。一方、後者は結婚前の状態が結婚後に一変し、それまで当然のことと認識していたことが許されない異質な事態として表わされている。

(20) 深夜の一時、二時まで毎晩のように残業をし、家に帰ったら寝るだけというハードな生活を何年も続けてきた人も少なくないはずだ。

それも会社のため、出世のためと
いうのではなく、そうするのが当
然の責任だと思って働いている。
これを母親は「よく頑張るわね」
と褒めてくれた。ところが、結婚
したとたんに、それが許されなく
なるのである。土日まで出勤しよ
うものなら、褒められるどころか
「家庭を顧みない、ダメな夫」と非
難されてしまう始末だ。

(山口宏『うかつな男としたたかな
女の法律講座』)

次の(21)では、「P(よ)うものならQ」
の先行文脈には波線部分(点線部分を含む)
「イタリアでは日本のように長い時間お酒だ
けを楽しむという習慣がなく、酔っぱらいは
ほとんど麻薬中毒と同等に病人として扱われ
る」というイタリアの習慣が表されており、
その文中にはそれと対比的な点線部分「日本
には長い時間お酒だけを楽しむという習慣が
ある」という日本の習慣が表されている。聞
き手にとって日本の習慣はよく知っているも
のだが、イタリアの習慣については認識もな
く、よく知らない異質なものとして表わされ
ている。

(21) レストランではあくまでもワイン
のみ、が正当である。したがって、
ワインが終わったらコーヒー(エ
スプレッソ)にして、お酒はもう
ストップしたほうがよい。だいた
いイタリアでは、日本のように長
い時間お酒だけを楽しむという習
慣がないし、酔っぱらいはほとん
ど麻薬中毒と同等に病人として扱
われる。千鳥足でなんか歩こうも
のなら白い目で見られたりと、お
酒の飲み方がスマートでないと、
ひどい恥をかくことになるのであ

る。顔が赤くなるのも、みっとも
ないとされる。特に女性の深酒は
禁物である。

(花園りえ『イタリアおいしい物語』)

5. 「(よ)うものなら」の使用の必要条件

この節では3.と4.で分析した「(よ)うもの
なら」の特徴から「(よ)うものなら」を使用
する際の必要条件がもとめられることを述べ
る。

ここまで3.と4.の分析をとおし、「(よ)う
ものなら」の文脈での用法と使用文脈の特徴
について次の(22)(23)のように述べた。

(22) 「(よ)うものなら」は、聞き手また
は話し手自身にとって想像、納得
しがたい(異質・例外)と話し手
が認識する事態について具体例や
理由などを述べて敷衍するのに用
いられる

(23) 「(よ)うものなら」が用いられる文
脈には、話し手が本来・通常であ
ると認識する事態と異質・例外で
あると認識する事態とが対比的に
表される

これらの性質が「(よ)うものなら」を使用
する際の必要条件を表しているかどうかを見
るため、「たりしたら」の例を用い、次の(24)
の条件に当てはまる場合には「(よ)うものな
ら」を用いると不自然さが現れることを確認
する。

(24) 文脈に2つの事態が対比的に表され
ているが、それらに対して、異質・
例外の事態である、本来・通常の
事態であると話し手が認識してい
ない場合

次の(25)は「拓也はそれを死体につけて
やろうかと思った」(点線部分)と「(拓也は

それを死体につけてやることを) やめることにした」(波線部分) という2つの事態が対比的に表されている。「P たりしたら Q」の「もしつける場所が変わっていたりしたら、一緒に行った女子社員が騒ぎだすかもしれない」(実線部分) は波線部分の事態の理由として用いられているが、波線部分の事態は点線部分の事態を改めた適切な事態であり、異質・例外であるという話し手の認識は読み取れない。この文脈で「(よ)うものなら」を用いると不自然になる。

(25) 八枚の花びらは金で、その中心にダイヤをちりばめてある。ずいぶん高級なものを持っているんだな一。拓也はそれを死体につけてやろうかと思った。だがふと思いついてやめることにした。康子は今夜の観劇にこれをつけていったのかもしれないのだ。もしつける場所が変わっていたりしたら、一緒に行った女子社員が騒ぎだすかもしれない。

(東野圭吾『ブルータスの心臓—完全犯罪殺人リレー—』)

次の (26) は「舞台衣装は揃えてあるからいい」(点線部分) と「お化粧品代がかかる」(波線部分) という2つの事態が対比的に表されている。「P たりしたら Q」の「白粉買ったり紅買ったりしたら足りない」(実線部分) は波線部分の事態の帰結を表し、波線部分の事態を敷衍する文の従属節として用いられているが、波線部分の事態は踊り子の世界での一般的な事態であり、異質・例外であるという話し手の認識は読み取れない。この文脈で「(よ)うものなら」を用いると不自然になる。

(26) 踊り子は二十人ぐらい、最盛期には五十人もいて、末廣よし子さんや黄金茶屋の娘の原てい子さん

は、踊りもうまくてきれいで有名な踊り子でした。舞台衣装は揃えてあるからいいんですが、お化粧品代がかかるんです。初任給は一月十五円。{白粉買ったり紅買ったりしたら /? 白粉や紅買おうものなら} 足りないの、小遣いを親からもらったわ。

(倉橋滋樹『少女歌劇の光芒—ひとときの夢の跡—』)

このように、「(よ)うものなら」は (24) で示した条件では使用が難しくなる。よって、「(よ)うものなら」は次の (27) のような使用の必要条件を持つと言えるだろう。

(27) 本来・通常の事態と比較して、当該事態はそれとは異なる、異質・例外の事態であると話し手が認識していなければ「(よ)うものなら」を使用できない

6. まとめ

本研究では「(よ)うものなら」について、「P (よ)うものなら Q」の P、Q に多く出現する語句や表現、先行文脈や後続文脈に多く出現する語句を調査し、それを手掛かりに、「(よ)うものなら」の文脈における用法、使用文脈の特徴、使用の必要条件について分析を行った。以下、本稿で述べたことをまとめると次のようになる。

(28) 【「(よ)うものなら」の文脈における用法】

「(よ)うものなら」は、聞き手または話し手自身にとって想像、納得しがたい(異質・例外)と話し手が認識する事態について具体例や理由などを述べて敷衍するのに用いられる

(29) 【「(よ)うものなら」の使用文脈の特徴】

「(よ)うものなら」が用いられる文脈には、話し手が本来・通常であると認識する事態と異質・例外であると認識する事態とが対比的に表される

(30) 【「(よ)うものなら」の使用の必要条件】

本来・通常の事態と比較して、当該事態はそれとは異なる、異質・例外の事態であると話し手が認識していなければ「(よ)うものなら」を使用できない

脈の特徴を分析し、「(よ)うものなら」の使用全体に現れる特徴を分析するものだからである。国立国語研究所：現代日本語書き言葉均衡コーパス（中納言版）

3) 国立国語研究所：現代語の助詞・助動詞一用法と実例一（国立国語研究所報告3）、秀英出版、東京、1951

4) 松村明（編）：日本文法大辞典、明治書院、東京、1971

5) 日本語教育学会（編）日本語教育事典、大修館書店、東京、1982

6) 日本語記述文法研究会（編）：現代日本語文法6 第11部 複文、くろしお出版、東京、2008

7) 玉村禎郎：～ものなら、日本語学第3巻第10号、81-88、明治書院、1984

8) 坪根由香里：終助詞・接続助詞としての「もの」の意味—「もの」「ものなら」「ものの」「ものを」一、日本語教育91号、37-48、1996

9) そのほかの分析の観点として、「(よ)うものなら」の「(よ)う」に着目した研究（藤田2013）がある。そこでは、「(よ)う」を意志・推量の助動詞ととらえず、「その程度で許されようはずがない（/わけがない/道理がない）」等の「よう」と同様の連体法の「(よ)う」とし、その「よう」が表す意味をもとに分析を行っている。しかし、この分析も「P(よ)うものならQ」の1文のみを対象として行われており、「(よ)うものなら」の文脈での用法や使用文脈の特徴についての議論はされていない。藤田保幸：複合時「～ものなら」について、藤田保幸（編）、形式語研究論集（龍谷叢書29）、和泉書院、大阪、2013

10) 調査した中級レベルの日本語総合教科書10冊、「(よ)うものなら」の扱いがあった教科書の教師用指導書（教え方の手引き）1冊は以下のとおりである。

付記

本研究は JSPS 科研費20K13094の助成を受けたものです。

注・参考文献

- 1) 本論文で用いる用語「事態」について、益岡（2013）によれば、「事態」には「子供がにっこり笑った」のような特定の時空間に出現する出来事を表した「事象」と、「あの人は優しい」といった性質などの「属性」とがあり、さらに「属性」は恒常的な「内在的属性」と一定の時間限定の可変的な状態である「非内在的属性」とに分かれる、とされている。本論文ではこの益岡(2013)が述べる「事態」をそのまま引き継いで用いる。益岡隆志：構文意味論、くろしお出版、東京、2013
- 2) サブコーパスについては出版・図書館・特定目的のすべてを検索対象とし、レジスターも特定のものに限定していない。理由は本研究の目的が「(よ)うものなら」の文

[中級日本語教科書10冊]

鎌田修・ボイクマン総子・富田佳子・山本真知子、生きた素材で学ぶ 新・中級から上級への日本語、ジャパンタイムズ、2012/ 海外技術者研究協会(編)、新日本語の中級、スリーエーネットワーク、2000/ できる日本語教材開発プロジェクト、できる日本語中級、アルク、2013/ 松田浩志・亀田美保、テーマ別中級から学ぶ日本語(三訂版)、研究社、2014/ 石沢弘子・新内康子・関正昭・外崎淑子・平高史也・鶴尾能子・土岐哲、改訂版日本語中級J301基礎から中級へ(英語版)、スリーエーネットワーク、2016/ 土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・石沢弘子、日本語中級J501中級から上級へ英語版(改訂版)、スリーエーネットワーク、2001/ 小柳昇、ニューアプローチ中級日本語[基礎編](改訂版)、語文研究社、2002/ 小柳昇、ニューアプローチ中上級日本語[完結編]、語文研究社、2002/ スリーエーネットワーク(編)、みんなの日本語中級Ⅰ、スリーエーネットワーク、2008/ スリーエーネットワーク(編)、みんなの日本語中級Ⅱ、スリーエーネットワーク、2012

[教師用指導書(教え方の手引き)1冊]

スリーエーネットワーク(編)、みんなの日本語中級Ⅱ教え方の手引き、スリーエーネットワーク、2014

- 11) 「(よ)うものなら」の用例の抽出については検索ツール「中納言2.4.5、データバージョン2021.3」の長単位検索を用いた。検索条件は、キーに品詞「動詞」、活用形「意志推量形」、後方共起1語に語彙素「物」、後方共起2語に品詞「助動詞」、語彙素「だ」、活用形「仮定形」とした。結果は233例で

あった。このうち、「P(よ)うものならQ」のQが省略されている2例を除いた231例を分析対象とした。国立国語研究所：コーパス検索アプリケーション中納言(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>) (最終閲覧日：2021年8月2日)

- 12) 「など」「なんて」「なんか」には例示を表すものと否定的評価を表すものがあるが、否定的評価を表す「など」については、沼田(2000:196)が「そんなことは起こるべきではない」という話し手の否定の想定を含みがあることを述べている。本研究において、「など」「なんて」「なんか」がどちらに該当するかは「そんなことは起こるべきではない」という話し手の否定の想定を含みが読み取れるかどうかで判断した。沼田善子：とりたて、金水敏・工藤真由美・沼田善子(著)、日本語の文法2時・否定と取り立て、153-216、岩波書店、東京、2000
- 13) 「たりしたり」の用例の抽出についてはコーパス検索アプリケーション中納言2.4.5、データバージョン2021.3」の長単位検索を用いた。検索条件(a)～(c)の3種類である。
- (a) キーに「たり」、後方共起1語に書字出現形「し」、後方共起2語に品詞「助動詞」、語彙素「だ」、活用形「仮定形」
- (b) キーに「たり」、後方共起1語に書字出現形「なんか」、後方共起2語に書字出現系「し」、後方共起3語に品詞「助動詞」、語彙素「だ」、活用形「仮定形」
- (c) キーに「たり」、後方共起1語に書字出現形「など」、後方共起2語に書字出現系「し」、後方共起3語に品詞「助動詞」、語彙素「だ」、活用形「仮定形」
- (a)の抽出数481例、(b)の抽出数5例、(c)の抽出数1例の計487例である。

- 14) 「たりしたら」の「～になる / ～ことになる」の具体的な表現は「大変な熱さになる」「台無しになる」「心配になる」「何なんだという話になる」「物笑いになる」「ぞっとする結果になる」「大変なことになる」「取返しのつかないことになる」「まずいことになる」「とんでもないことになる」「苦労することになる」「頭がくらくらするような思いを味わうことになる」などであった。
- 15) 「少量」を表す語につく譲歩の「でも」については、寺村（1991:134-135）が「「Qでも」は（「Q だったら P ではない」という「条件一掃結」を否定して）物事の肯定的側面を強調する」と述べており、話し手には「少量だったら～は起こらない」という想定があることがわかる。寺村秀夫：日本語のシンタクスと意味Ⅲ、くろしお出版、東京、1991

